

多く見られたイシガレイとヌマガレイの交雑個体

■今年のイシガレイ稚魚は2つのグループ

前回の調査で、イシガレイ稚魚は大きさから2つのグループに分けられると考えたが（レポートNo.309参照）、今回の調査でも同じ傾向が見られた（Table.1, 2 交雑個体のデータは含まない）。両者の間には平均全長でおよそ2倍の差が見られる。2011年からの調査で、このような傾向が見られたことはない。産卵の時期や外海から接岸する時期の気温等が影響を与えたのかもしれないが、原因はわからない。なお、潟湖内では採集することができなかった。

全長	3.0cm	3.5cm	4.0cm	4.5cm	5.0cm	5.5cm	6.0cm	平均全長
河口	3	4	2			1	2	4.0
水門付近(河口側)	4	3	1	2	2		1	4.0

平均全長3.6cm

(Table.1 6月18日全長と採集個体数)

平均全長5.9cm

全長	2.0cm	2.5cm	3.0cm	3.5cm	4.0cm	4.5cm	5.0cm	5.5cm	6.0cm	6.5cm	7.0cm	7.5cm	8.0cm	8.5cm	平均全長
河口	5		1		4	1	2						1		3.7cm
水門付近(河口側)		1		2	2	1	2				1	1			4.7cm
潟湖内									3	1	1	2	1	1	7.0cm

平均全長3.6cm

(Table.2 5月22日全長と採集個体数)

平均全長7.1cm

■多く見られたイシガレイとヌマガレイの交雑個体

今回の調査では、イシガレイとヌマガレイの交雑個体と思われる稚魚を19匹採集した。これらの個体はTable.1のデータには入れていないが、通常のイシガレイとの明確な全長の差は認められない（Table.3）。

交雑個体の全長	3.0cm	3.5cm	4.0cm	4.5cm	5.0cm	5.5cm	6.0cm	平均全長
河口	1	1	1				3	4.8
水門付近(河口側)	2	4	2	2	1	1	1	4.1

(Table.3 交雑個体の全長)



(Fig.1 イシガレイとヌマガレイの交雑個体)

(佐藤 賢治)